文部科学省 地(知)の拠点 平成25年度採択 文部科学省「地(知)の拠点整備事業」

To-Collabo通信

Tokai university Community linking laboratory

Vol.15
2017.12.20

シンポジウム「シティズンシップ育成をめざす教育改革」を開催

11月27日に湘南校舎で、シンポジウム「シティズンシップ育成をめざす教育改革～東海大学におけるパブリック・アチーブメント型教育の挑戦～」を開催しました。

本学では、平成25年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」の採択を受けて展開している「To-Collaboプログラム」の中で、学生が社会参加の経験を通して民主主義社会における市民性(シティズンシップ)を獲得することを目指すパブリック・アチーブメント(PA)型教育の導入を推進してきました。今回のシンポジウムは、来年度から全学部(医学部を除く)のカリキュラムにPA型教育を導入することに先立ち、学内外にその意義を広く発信することを目的としたものです。代々木、高輪、清水、伊勢原、熊本、札幌の各校舎にもテレビ会議システムで配信し、教職員や学生ら約130名が参加しました。

今年度は「To-Collaboプログラム」の採択最終年度であることから、現代教養センターの木村英樹所長(工学部教授)が本学で実践してきたPA型教育の取り組みとその狙いを紹介。2006年にチャレンジセンターを設置し、学生によるプロジェクト活動や選択科目を通じて地域との連携を図ってきた当初の様子などを紹介しました。

その後行ったパネルディスカッションには、健康科学部社会福祉学科の稗田里香准教授と国際教育センターの西川惠准教授、現代教養センターの堀本麻由子准教授、唐木清志氏＝下記事参照＝が登壇。稗田准教授と西川准教授がこれまでに実践したPA型教育の事例を紹介したほか、授業で心がけている教育手法などについて意見を交わしました。

パネルディスカッションの様子

授業でのこころがけについて話す西川准教授

授業での取り組みを紹介する稗田准教授

PA型教育の取り組みについて講演する木村所長

"シティズンシップ教育の今" 唐木清志氏が講演

シンポジウムでは、シティズンシップ教育やサービス・ラーニングを専門とする筑波大学人間系教授の唐木清志氏による基調講演「シティズンシップ教育の今」を実施しました。

他大学で行われているシティズンシップ教育の事例などを紹介し、大学が用意できる環境や人材だけで学ぶには限界があると指摘。「近年、社会参加を通して市民性を培おうと、国内外の大学で社会と積極的にかかわる動きが見られます。シティズンシップ教育を必修化することは、東海大学の新たな強みになるでしょう」と話しました。

また、日本の小学校、中学校、高校の評価制度で用いられる資質・能力について、「授業の中では学問的な事柄だけではなく、学習への姿勢や人間性など、ペーパーテストでは判断できない部分にも目を向けてください」と呼びかけました。唐木氏はほかにも、学生が教室で得た知識を社会貢献活動に生かす「サービス・ラーニング」の教育活動についても解説しました。

学習する姿勢や学生の人間性にももっと目を向けるべきと語る唐木氏

湘南校舎

― 安心安全 ―

SNSを活用した災害情報共有システムの実証実験

大学推進プロジェクト「地域デザイン計画　安心安全事業」が7月13日に、神奈川県立秦野高等校と共同でSNSを活用した災害情報共有システムの実証実験を行いました。

情報理工学部の内田理教授が開発したシステムは、短文投稿サイトTwitterを活用して災害時に簡単かつ効果的に記事を投稿できる「DITS」(※1)と、投稿結果を地図上に表示する「DIMS」(※2)で構成されています。これまでにも近隣の自治体と協力した実証実験や、高校生や市民を対象にした防災ワークショップなどで活用しています。

実証実験には内田教授と工学部の梶田佳孝教授、学生らが参加。最初に内田教授がDITSの使い方や災害時のSNS活用の可能性を解説した後、生徒とともに校舎の近隣を散策し、防災施設や危険箇所を撮影して投稿しました。

災害時に役立つ拠点をタブレット端末で撮影・投稿する様子

※1 Disaster Information Tweeting System　※2 Disaster Information Mapping System

― 環境保全 ―

「環境保全型社会に向けた次世代育成の取り組み」

多くの地域住民らが来場した

大学推進プロジェクト「エコ・コンシャス計画　環境保全事業」が10月7日と11月4日にTOKAIクロスクエアで、医学部の教員によるシンポジウム「環境保全型社会に向けた次世代育成の取り組み」を開催しました。

第1回は寺山隼人准教授が「農業研究―ネオニコチノイド系農薬の表裏―」をテーマに講演。寺山准教授は農薬の歴史や「ネオニコチノイド系農薬」が昆虫に作用するメカニズムと人体への影響などを解説しました。

第2回では、坂部貢医学部長が「―環境化学物質と子どもの健康―」をテーマに講演。内分泌攪乱化学物質について語り、がんやアレルギー性疾患などの発症リスクを高め、子どもの異常行動や学習障害を引き起こすといった疫学的調査結果などを解説しました。

― 文化・芸術 ―

「TOKAI芸術シニアアカデミー2017」

教養学部芸術学科が11月25日から12月9日まで湘南校舎で「TOKAI芸術シニアアカデミー2017」を開催しました。大学推進プロジェクト「観光イノベーション計画　文化・芸術事業」の一環で、平塚市、秦野市、伊勢原市、大磯町に在住、在学、在勤している50歳以上の人を対象に、本学科3課程（音楽学・美術学・デザイン学）の特徴を生かしたプログラムを3回シリーズで開講。今年度は17名が参加しました。

音楽講座は「トルコの音楽と歴史」をテーマに、軍楽、古典音楽、民族音楽など多様なトルコ音楽の魅力を紹介。美術講座では「銅版画制作―メゾチント技法にチャレンジ！―」、デザイン講座では「陶土で印をつくる―“自分”を表わすオリジナル印をデザインする―」と題し、作品を制作しました。

芸術学科の教員が丁寧に指導

代々木校舎

― 地域観光 ―

シンポジウム「観光地・観光客の特性に応じた地域観光の振興」

パネルディスカッションでは、各校舎の所在地ならではの観光資源とその活用法、住民特性などが語られました

大学推進プロジェクト「観光イノベーション計画　地域観光事業」が12月9日に代々木校舎で、シンポジウム「観光地・観光客の特性に応じた地域観光の振興」を開催しました。地域によって異なる地域観光の振興策について議論を深めることを目的としています。

プロジェクトの成果報告では、湘南・代々木校舎は観光学部観光学科の屋代雅充教授、清水校舎は海洋学部環境社会学科の東惠子教授、熊本校舎は経営学部観光ビジネス学科の鈴木康夫教授、札幌校舎は国際文化学部地域創造学科の植田俊助教がそれぞれ登壇。各校舎で作成した地域の魅力を伝える観光マップや、自治体との連携事業とその反響などについて紹介しました。

また、登壇した教員らによるパネルディスカッションでは、「それぞれの観光地の特性を鑑みて今後どんなマップをつくるべきか」「どのように周辺地域を巻き込むか」など多様なテーマについて意見を交わし合いました。

鈴木教授は、観光による被災地復興について講演

高輪校舎

― 大学開放 ―

地域情報ポータルサイト「プラチナたかなわ.net」

高輪校舎の情報通信学部生有志と教職員が今年度から、東京都・白金高輪エリア（三田・高輪・白金・白金台）の地域情報ポータルサイト「プラチナたかなわ.net」の製作・運営に協力しています。

NPO法人ウィズ・ユーがCSR活動として経費や事務局を担い、学生がサイトのシステムを企画・構築し、港区高輪地区総合支所が町会や自治体のSNSなどのコンテンツを作成。白金地域の情報発信サイト「白金タイムズ」がシステムデザインを監修し、産官民学の連携によって今年7月にスタートしたサイトです。地域で開催するイベントやセミナー情報、コラム記事などが随時更新されています。

各町会がSNSを立ち上げる際には、高輪校舎で利用方法を学ぶ全3回の講座を開催し、学生が講師となってアカウントの作成から投稿の方法までを解説しました。

東海大学チャレンジセンター・Takanawa共育プロジェクト（TKP）の学生も参加

清水校舎

―ブランド創造―
シーフードショーにブースを出展

海洋学部が8月23日から25日まで東京ビッグサイトで開催された「第19回ジャパン・インターナショナル・シーフードショー」にブースを出展しました。

大学推進プロジェクト「地域デザイン計画　ブランド創造事業」の一環で開発している「タカアシガニ魚醤油」をはじめ、水産学科食品科学専攻の食品製造学実習で製造した「黒はんぺんカレー」や、カワハギやタラなどさまざまな魚を利用した缶詰を展示。期間中は学生が来場者への説明を担当しました。製造方法が異なる「タカアシガニ魚醤油」5種の試作品を展示し、おいしそうなものに投票してもらう参加型のコーナーも設けました。

また、水産学科生物生産学専攻の秋山信彦教授がシンポジウム「陸上養殖の現状と未来」で、「三保地下海水を用いた陸上養殖の現状と課題」をテーマに講演しました。

開発した製品をアピールする学生たち

―大学開放―
洋上セミナー2017「深海魚を探せ！」

教員の丁寧な解説に聞き入る参加者たち

10月15日に静岡市清水区の巴川河口の岸壁を発着点として、東海大学の海洋調査研修船「望星丸」を用いた市民対象の「東海大学『望星丸』洋上セミナー2017『深海魚を探せ！～深めよう海と人の絆～』」を開催しました。大学推進プロジェクト「ライフステージ・プロデュース計画　大学開放事業」の一環で2013年度から毎年実施。望星丸に乗船して駿河湾を巡ることで、その特徴や魅力、海洋学部の教育と研究内容について理解を深めてもらうことが目的です。今回は静岡県内の中高生とその保護者ら、一般市民60名が参加しました。

船上では、学生が深海生物採集用の「IKMTネット」について説明したほか、松浦弘行准教授と高見宗広非常勤講師が深海生物を一つひとつ解説。参加者たちは興味深く観察しながら写真を撮っていました。

伊勢原校舎

―スポーツ健康―
「知って健康！生き生きライフ」報告会を開催

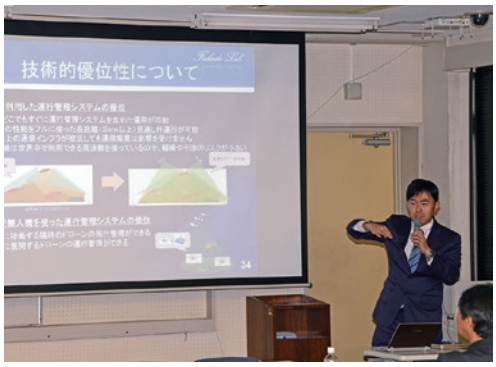
大学推進プロジェクト「ライフステージ・プロデュース計画　スポーツ健康事業」の報告会を、11月3日に伊勢原校舎で開催しました。「知って健康！　生き生きライフ～伊勢原市民の健康寿命の延伸に向けた取り組み～」をテーマに、本学と伊勢原市が連携して実施している「東海大学健康クラブ・市民健康スポーツ大学」と「健康バス測定会」の成果を担当教員が発表。伊勢原市の職員や市民、教職員らが多数参加しました。

当日は、地域連携センターの池村明生所長や伊勢原市健康づくり課の辻雅弘参事兼課長が登壇。研究代表の沓澤智子健康科学部長も、「健康に関心が高い人に対する健康づくりの支援」「健康に関心の低い人に対する啓発活動」の2つを柱に展開している伊勢原市民の健康意識向上に関する取り組みについて紹介しました。

「健康バス測定会」の実施状況や成果を説明

熊本校舎

―エネルギー・ハーベスト―
シンポジウム「創エネ・省エネ技術の最先端」を開催



代表を務める工学部航空宇宙学科航空宇宙学専攻の福田紘大准教授が「東海大学における創エネ・省エネ技術の最先端」として、本学で取り組んでいる多彩な研究活動について紹介

熊本校舎で11月25日に、シンポジウム「創エネ・省エネ技術の最先端～考えよう私たちのエネルギー～」を開催しました。大学推進プロジェクト「エコ・コンシャス計画　エネルギー・ハーベスト事業」による活動で、再生可能エネルギーや省エネ、将来のエネルギー社会のあり方などを考えることが目的。学生や教職員、地域住民ら約40名が参加しました。

プロジェクトの代表を務める福田紘大准教授（工学部）と、チャレンジセンター「ライトパワープロジェクト」ソーラーカーチーム総監督を務める木村英樹教授（同）、「越波式波力発電」の研究を推進する田中博通教授（海洋学部）が講演。また、NPO法人「九州バイオマスフォーラム」の中坊真事務局長による招待講演「糞尿や生ごみからエネルギーを生み出す」と熊本市温暖化対策室長の坂本康祐氏を交えたパネルディスカッションも実施しました。

パネルディスカッションの様子

札幌校舎

―ブランド創造―
「工作ワークショップ　札幌軟石でつくろう！」

札幌校舎で11月26日、大学推進プロジェクト「地域デザイン計画　ブランド創造事業」によるイベント「地元の素材でつくる工作ワークショップ　札幌軟石でつくろう！―札幌景観色を知ってるかい？―」を開催しました。

キャンパスの地元地域の資源である「札幌軟石」のリブランディングを目指すとともに、市民の皆さんに軟石に身近に触れてもらう機会とすることが目的。当日は約120名が参加しました。

「札幌軟石」を使ったグッズ製作などに取り組む「軟石や」主宰の小原恵さんが講師を務め、参加者が「木と軟石の万年カレンダー」や「軟石のお家（かおるいえ）絵付け」「軟石黒板づくり」などに挑戦。和やかな雰囲気の中、思い思いのデザインを石に施し、札幌軟石の魅力を感じながら作品づくりを楽しみました。

多くの参加者でにぎわった

TOKAIグローカルフェスタ2017を開催

― 50をこえる多彩なプログラムを用意 ―

地域の皆さまに向けた、グローバルでローカルな1日だけの大学開放Day！

湘南校舎で10月21日に、「TOKAIグローカルフェスタ2017」を開催しました。大学推進プロジェクト「ライフステージ・プロデュース計画 大学開放事業」の一環で、“地域住民のオープンキャンパス”として、昨年に続いて2回目の実施となった今回は、11のプログラムで多彩な企画を用意。あいにくの雨にもかかわらず、1000名以上の来場者を迎えました。

教養学部芸術学科による恒例の「おひろめ芸術祭」や、留学生と日本人学生が各国の文化を紹介する「国際フェア」は今年も大盛況。課程資格教育センターが開いた「TOKAI×MUSEUM GO!!」では、昨年に続いて「家族で楽しむアート 秋の昆虫採集」と題したワークショップを実施しました。

「親子で楽しむ防災広場」と「創エネ・省エネ技術の最先端」では、To-Collaboプログラムに参画している教員らが、防災や新エネルギー技術に関する研究成果を生かしたブースを出展。平塚市、秦野市、伊勢原市、大磯町の企業や団体が地域の魅力を紹介する「湘南マルシェ」も好評を博しました。

また、教養学部人間環境学科自然環境課程による「学び楽しむ環境教室in湘南」と、中央図書館による「Open Library」、地域の方が講師となった「ポールウォーキング体験会」を初開催。チャレンジセンターのプロジェクトが活動成果をポスターセッション形式で発表する「チャレンジプロジェクト報告会」は、「チャレンジフェア」の中で初めて同日開催しました。

地域連携センターの池村明生所長は、「今回は新しい企画も多く、地域住民だけでなく大勢の学生も参加してくれました。来年以降も続けていきたい」と語りました。

湘南マルシェ

チャレンジプロジェクト報告会

Open Library

学び楽しむ環境教室 in 湘南

国際フェア

活動報告

― クロスクエア ―

地域連携講座「駅前研究室へようこそ！」を開催

小田急線・東海大学前駅南口の「TOKAIクロスクエア」で11月6日に、地域連携講座「駅前研究室へようこそ！」を開催。政治経済学部経営学科の岩谷昌樹教授の研究室に所属する3年次生5名が講師を務めました。

岩谷教授のゼミでは、学生のプレゼンテーション力を高める取り組みとして「ゼミワングランプリ」を実施しており、国内外の企業についての調査結果を発表し合い、学生同士の投票で順位を決定。上位入賞者がこの講座の講師を務めています。

今回は、「Best Global Brands 2017」にランクインしている「Wikipedia」「Nike」「カルピス」「資生堂」「YouTube」について、「なぜそのブランドが強いのか」「どのような取り組みをしているのか」を、地域住民や学生ら約30名を前に一人ずつ発表しました。

日ごろの研究成果を堂々と発表

― 地域連携センター ―

地域連携紙『ちえん』発行 約60カ所で配付中

地域連携センターでは来年1月中旬に、東海大学地域連携紙『ちえん』Vol.3を発行します。「東海大学と地域が創り出す、地の縁・知の園・地の宴」を意味する『ちえん』は、地域住民や教職員、学生が楽しめる地域交流型のローカルメディアです。7月に創刊し、10月にVol.2を発行しています。

Vol.3では、大学推進プロジェクト「地域デザイン計画 安心安全事業」に携わる教員と関係者らが地域とともに取り組んできた防災・減災に関するプロジェクトについて語る「ちえん」をつくる人々」や、ゲストがキャンパス内を散策する様子をイラストで紹介する「TOKAI探訪記」などを掲載。盛りだくさんの8ページです。

「TOKAIクロスクエア」や湘南校舎内のほか、平塚市、秦野市、伊勢原市、大磯町の公民館や地元金融機関など約60カ所で配布しています。

地域と大学の縁を感じる景色を毎号表紙に

雑誌「ソトコト」編集長 指出一正氏と東海大学 山田清志学長の対談が決定！

2018年2月16日（金）東海大学湘南キャンパス（予定）
※ 詳細は後日トコラボWEBサイト等で紹介します！

文部科学省　平成25年度「地（知）の拠点整備事業」採択「To-Collaboプログラムによる全国連動型地域連携の提案」

全国にキャンパスを有する大学ならではの「全国連動型地域連携活動」を柱に、地域特有の問題や共通課題を各校舎の学部、学生、研究者が共有し協力して解決策を見いだす取り組みです。To-Collabo（トコラボ）とはTokai University Community Linking Laboratoryの略称で、日本全国に広がる総合教育機関の高等教育拠点である東海大学（Tokai University）の特色を生かした教育・研究活動と地域をつなぐ（Community Linking Laboratory）ことを示しています。

トコラボ WEB サイト　トコラボ Facebook
活動情報配信中!!

『To-Collabo通信』Vol.15（2017年12月号）
発行　東海大学地域連携センター地域連携課　※ 2017年4月To-Collabo推進室は「地域連携センター」に改称しました。

〒259-1292　神奈川県平塚市北金目4丁目1番1号
TEL　0463-50-2406（直通）
FAX　0463-50-2034
E-mail　coc@tsc.u-tokai.ac.jp
WEB　https://coc.u-tokai.ac.jp/
Facebook　https://www.facebook.com/tokai.coc
東海大学